

令和5年度 入学式式辞

新緑が輝きを増し、新たな生命が随所で躍動しています。華やかなスタートを祝うこの佳き日に、多数のご来賓並びに保護者の皆様の御臨席を賜り、令和五年度 東京都立豊多摩高等学校 第七十八回 入学式を挙行できますことを、心より御礼申し上げます。

ただ今、入学を許可いたしました319名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。高倍率の選抜を突破された皆さんの努力と成果に敬意を表し、教職員一同、ご入学を心から歓迎いたします。保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、2週間ほど前のこととなりますが、変化のスピードの速い現代にあっては、もう遠い過去のことでしょうか。普段、プロ野球など見ない私のようにわかファンにも、WBCは少年の純粋な心と呼び起こし、興奮と感動を与えてくれました。数々の素晴らしいプレイや場面が印象に残っていますが、私は彼らの姿を見て強く感じたことがあります。それを共有させてください。

ひとつは楽しむということ。「さあ、楽しんでいこう！」選手たちは口々に言っていました。その前向きな姿勢が、一人一人に刺激となって、伸びやかにプレイする原動力となったのだと思います。

次に信じるということ。監督は選手を信じました。選手たちも監督を信じ、自分の力を信じ、勝利を信じました。信じるという心の状態が、立ち向かう勇気となり、結果につながりました。

そして、全員が頂点を目指して諦めなかったということ。否定的な言動や弱音を吐くことなく、目標をしっかりと見据え、それに焦点を合わせて全力で取り組みました。陰では血と汗の滲む厳しい練習があったにちがいません。

そんなことを、これから始まるみなさんの高校生活に当てはめてみてください。豊多摩を信じ、自分の力を信じ、高いところを目指して、楽しんでいただきたい。ここ豊多摩では、それができる。あなたが求めるなら、そして情熱をもって、ひたむきに取り組むなら、ともに汗を流し同じ夢を追う仲間がいるはずです。そして、それを見守るご家族、それを支える先生方がいます。

自主自律という言葉に憧れて、本校の門を叩いた者もあるでしょう。しかし、自主自律とは、本来与えられるものではなく、自らが成し遂げるものであることを肝に銘じなければなりません。楽しみたいのに、活躍したいのに、場がないとか、指導者がいないとか、授業がつまらないとか、周囲のせいにして逃げ道を作るのは簡単なことですが、それでは進歩がありません。環境を改善し、あるいは新たな世界を作り出す、時に自らを変容させることさえも求められているのです。

私は豊多摩の学友には、健全な批判的精神と実行力を求めます。久しく、クリティカルシンキングという言葉が注目されています。物事の本質を論理的に捉え、これでよいのかと深く追究する批判的思考の事です。敢えて「健全な批判的精神と実行力」としたのは、ただ考え、指摘したり、不平不満を言ったりするだけではだめで、その先の実行力が問われるということです。気づきは大切なことですが、気づいたら活路を見出すために行動することです。それが自主自律の背後に求められる君たちの責任だと考えていただきたい。

時代は、ポストコロナに向かいます。今日、皆さんは吹奏楽の演奏をバックに入場しました。実に4年ぶりの生演奏を、私はポストコロナ時代到来のファンファーレのようだと思って聞いていました。これまで3年間、コロナ禍の只中であって、さまざまな制約を強いられてきました。学校では、脈々と続いてきた伝統や文化の継承が難しくなりました。今、本当の自分を取り戻すときがやってきたのです。ここ豊多摩で、日々の勉強、部活動、学校行事を楽しみながら、自分を信じて、限界を定めることなく、伸びやかに、おおらかに、勇気を持って、それぞれの世界で、頂点を極めてほしい。それが、**Touch the Sky!** に込めた想いです。新たな時代、豊多摩の再出発に向けて、みなさんの力を貸してください。

保護者の皆様、3年後成年年齢を迎える若者たちを、自立した大人として世に送り出すまで、教職員は力を尽くします。今、私も未来を担う人材の育成という崇高な使命に身が引き締まる思いでいます。入学生の皆さんの限りない可能性を祝し、合わせて本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

令和5年4月7日

東京都立豊多摩高等学校長

枡倉 和則